第５章　火災による死傷者の状況

１　火災による死者

○　火災による死者が前年と比べ 22 人増加しました。
○　死者が発生した火災の主な出火原因は、たばこによる火災で、そのうちの７割が男性です。

(1)　発生状況

ここでとりあげる「火災による死者」とは、火災に起因して死亡した者をいい、「自損行為」とは、放火による自損行為のことをいいます。

火災による死者の年別発生状況をみたものが表 5-1-1、年齢区分別と火災種別、男女別の死者発生状況をみたものが表 5-1-2、月別火災件数と自損行為を除いた死者の発生状況をみたものが表 5-1-3 です。

表 5-1-1　年別発生状況（最近 10 年間）

年別	全火災件数	死者の発生した火災件数	死者発生率（%）	死者数合計	自損行為以外の死者数	年齢区分 乳幼児	未成年	成人	高齢者 高齢者前期	高齢者 高齢者後期	不明
22 年	5,086	93	1.8	105(16)	89	2(-)	6(-)	39(10)	25(2)	31(2)	2(2)
23 年	5,340	78	1.5	84(14)	70	-(-)	1(-)	37(10)	12(2)	34(2)	-(-)
24 年	5,088	103	2.0	115(21)	94	3(-)	2(1)	44(15)	23(4)	42(1)	1(-)
25 年	5,190	80	1.5	87(10)	77	-(-)	1(-)	30(7)	16(2)	40(1)	-(-)
26 年	4,804	87	1.8	94(16)	78	-(-)	-(-)	21(7)	25(8)	47(-)	1(1)
27 年	4,430	87	2.0	95(16)	79	2(-)	-(-)	34(10)	24(3)	35(3)	-(-)
28 年	3,980	77	1.9	83(15)	68	1(-)	-(-)	28(9)	28(6)	24(-)	2(-)
29 年	4,204	76	1.8	79(14)	65	-(-)	1(-)	27(8)	20(5)	30(-)	1(1)
30 年	3,972	79	2.0	86(12)	74	-(-)	-(-)	24(3)	30(6)	32(3)	-(-)
元年	**4,085**	**95**	**2.3**	**108(17)**	**91**	**1(-)**	**-(-)**	**42(8)**	**29(3)**	**36(6)**	**-(-)**

注１　火災件数は、治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。
　２　（　）は「自損行為による死者」数を内数で示したものです。

○　死者発生状況をみると、死者の発生した火災は 95 件（前年比 16 件増加）、死者数は 108 人（同 22 人増加）と７年ぶりに 100 人を超える。
○　死者発生率をみると、全火災件数の 2.3%で、最近 10 年間で最多。

表 5-1-2　年齢区分と火災種別、男女別死者発生状況

死者の年齢区分			火災種別								男女別	
			合計	建物火災					車両	その他	男性	女性
				小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや				
火災件数			95	90	18	17	44	11	1	4		
死者数	合計		108	103	25	17	50	11	1	4	69	39
	自損行為以外		91	91	21	17	43	10	－	－	57	34
	乳幼児		1	1	－	－	－	1	－	－	－	1
	未成年		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	成人		34	34	9	6	18	1	－	－	22	12
	高齢者	前期高齢者	26	26	3	6	13	4	－	－	21	5
		後期高齢者	30	30	9	5	12	4	－	－	14	16
	自損行為による死者		17	12	4	－	7	1	1	4	12	5

表 5-1-3　月別火災件数と死者発生状況

項目		月／合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
火災件数		4,085	446	381	379	382	379	274	264	312	290	267	326	385
死者数	合計	91	20	14	11	8	4	5	1	3	2	3	4	16
	高齢者以外	35	5	7	1	3	2	3	1	3	－	2	2	6
	高齢者	56	15	7	10	5	2	2	－	－	2	1	2	10
高齢者の占める割合（％）		61.5	75.0	50.0	90.9	62.5	50.0	40.0	0.0	0.0	100.0	33.3	50.0	62.5

注１　火災件数は、治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。
　２　死者数は、自損行為による死者を除いています。
　３　１月から３月及び12月を合わせた期間を「火災多発期」といいます。

○　男女別に死者発生状況をみると、男性が69人（63.9％）、女性が39人（36.1％）となっており、男性が６割以上を占める。

○　年齢区分別に死者発生状況をみると、高齢者の死者は56人（61.5％）で、自損行為を除く死者数の６割以上を占める。

○　火災種別ごとの自損行為を除く死者発生状況をみると、91人全員が建物火災で発生。建物火災による死者のうち、部分焼以上に延焼拡大した火災による死者は81人（89.0％）発生。

○　月別火災件数と死者発生状況をみると、火災多発期の火災件数は1,591件（38.9％）で、死者数は61人（67.0％）となっており、自損行為を除く死者数の６割以上を占める。

⑵　出火原因別発生状況

発火源別の経過・火災種別ごとに死者発生状況をみたものが表 5-1-4、年齢区分と発火源別に死者発生状況をみたものが表 5-1-5 です。

表 5-1-4　発火源別の経過・火災種別死者発生状況

発火源		合計	経過							火災種別				
										建物				
			火源が落下する	放火	可燃物が接触する	不適当な処に捨てる	電線が短絡する	火源が転倒する	その他・不明	合計	全焼	半焼	部分焼	ぼや
合計		91	26	8	7	6	3	2	39	91	21	17	43	10
たばこ		35	26	－	－	6	－	－	3	35	2	5	24	4
電気設備機器	小計	13	－	－	6	－	3	1	3	13	－	3	8	2
	電気ストーブ	5	－	－	4	－	－	1	－	5	－	1	4	－
	電気溶接器	3	－	－	－	－	－	－	3	3	－	－	3	－
	屋内線＊	2	－	－	－	－	2	－	－	2	－	2	－	－
	電気あんか	1	－	－	－	－	1	－	－	1	－	－	1	－
	電気こんろ	1	－	－	1	－	－	－	－	1	－	－	－	1
	ハロゲンヒータ	1	－	－	1	－	－	－	－	1	－	－	－	1
ガス設備器	小計	3	－	－	1	－	－	－	2	3	－	－	1	2
	ガスこんろ	1	－	－	1	－	－	－	－	1	－	－	－	1
	ガステーブル	1	－	－	－	－	－	－	1	1	－	－	－	1
	簡易型ガスストーブ	1	－	－	－	－	－	－	1	1	－	－	1	－
石油ストーブ		3	－	－	－	－	－	－	3	3	2	－	1	－
ロウソク		2	－	1	－	－	－	－	1	2	1	－	1	－
灯明＊		1	－	－	－	－	－	1	－	1	－	1	－	－
ライター		1	－	1	－	－	－	－	－	1	1	－	－	－
不明		33	－	6	－	－	－	－	27	33	15	8	8	2

注　自損行為による死者を除いています。

表 5-1-5　年齢区分と発火源別死者発生状況

発火源		合計	年齢区分				
			乳幼児	未成年	成人	高齢者	
						前期高齢者	後期高齢者
合計		91	1	－	34	26	30
たばこ		35	－	－	17	13	5
電気設備機器	小計	13	－	－	4	2	7
	電気ストーブ	5	－	－	－	1	4
	電気溶接器	3	－	－	3	－	－
	屋内線*	2	－	－	1	1	－
	電気あんか	1	－	－	－	－	1
	電気こんろ	1	－	－	－	－	1
	ハロゲンヒータ	1	－	－	－	－	1
ガス設備機器	小計	3	－	－	－	1	2
	ガスこんろ	1	－	－	－	1	－
	ガステーブル	1	－	－	－	－	1
	簡易型ガスストーブ	1	－	－	－	－	1
石油ストーブ		3	－	－	－	－	3
ロウソク		2	－	－	1	－	1
灯明*		1	－	－	－	1	－
ライター		1	－	－	－	－	1
不明		33	1	－	12	9	11

注　自損行為による死者を除いています。

○　死者発生状況を発火源別でみると、たばこによる火災の死者が35人（38.5%、前年比9人増加）と最も多く、次いで電気設備機器が13人（14.3%、同2人増加）、ガス設備機器及び石油ストーブが各3人（3.3%、ガス設備機器は同6人減少、石油ストーブは同2人増加）の順で発生。

○　発火源別の経過をみると、たばこによる火災は「火源が落下する」が26人（74.3%）で7割以上を占める。

○　発火源別の死者を年齢区分別でみると、たばこによる火災の死者は成人が17人（48.6%）で最も多く、電気設備機器による火災の死者は電気ストーブの後期高齢者が4人（30.8%）で最も多い。

２　火災による負傷者

○　火災による負傷者のうち、高齢者の割合が前年と比べて 0.4 ポイント増加しました。

(1)　発生状況

ここでとりあげる「火災による負傷者」とは、火災に起因して負傷した人をいいます。

ア　発生状況

火災による負傷者の年別発生状況をみたものが表 5-2-1 です。

表 5-2-1　年別発生状況（最近 10 年間）

年別	全火災件数	負傷者の発生した火災件数	負傷者発生率（%）	負傷者合計	負傷者区分			
					一般人			消防活動従事者
					小計	自損行為以外	自損行為	
22 年	5,086	701	13.8	932(9)	913(9)	897(7)	16(2)	19
23 年	5,340	710	13.3	962(13)	944(13)	918(11)	26(2)	18
24 年	5,088	646	12.7	832(7)	814(7)	802(7)	12(-)	18
25 年	5,190	608	11.7	781(3)	763(3)	744(3)	19(-)	18
26 年	4,804	579	12.1	790(8)	777(8)	761(7)	16(1)	13
27 年	4,430	602	13.6	827(4)	815(4)	804(4)	11(-)	12
28 年	3,980	604	15.2	853(8)	842(8)	831(7)	11(1)	11
29 年	4,204	569	13.5	758(9)	750(9)	734(7)	16(2)	8
30 年	3,972	530	13.3	798(19)	787(19)	775(18)	12(1)	11
元年	**4,085**	**540**	**13.2**	**705(9)**	**700(9)**	**687(7)**	**13(2)**	**5**

注１　消防活動従事者とは、消防職員、消防団員などの消防活動等に従事した者の区分です。
２　（　）内は、30 日死者(火災による負傷者のうちで、48 時間を超え 30 日以内に死亡した人)を内数で示したものです(「30 日死者」の項を参照)。
３　負傷者発生率とは、負傷者の発生した火災件数が全火災件数に占める割合です。

○　負傷者が発生した火災は 540 件（前年比 10 件増加）で、705 人（同 93 人減少）が負傷。このうち一般人の負傷者は 700 人（同 87 人減少）発生。

イ　火災種別・年齢区分と受傷程度の状況

火災種別と年齢区分別に受傷程度をみたものが表 5-2-2、３人以上の負傷者が発生した火災状況をみたものが表 5-2-3 です。

表 5-2-2　火災種別・年齢区分別受傷状況

受傷程度	負傷者合計	火災種別									年齢区分					
		建物					林野	車両	船舶	その他	乳幼児	未成年	成人	高齢者		不明
		小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや								前期高齢者	後期高齢者	
合計	687	643	51	49	199	344	1	20	1	22	11	32	432	86	125	1
重篤	25	22	2	2	12	6	－	1	－	2	－	－	14	3	8	－
重症	79	76	5	9	32	30	－	－	－	3	－	1	41	15	22	－
中等症	166	161	21	11	54	75	－	3	－	2	－	5	87	28	46	－
軽症	417	384	23	27	101	233	1	16	1	15	11	26	290	40	49	1

注　消防活動従事者（５人）及び自損行為による負傷者（13 人）を除いた人数です。

表 5-2-3　３人以上の負傷者が発生した火災状況（最近 10 年間）

年別	火災発生件数	負傷者の発生した火災件数（3人以上）	負傷者合計（3人以上）
22 年	701	47	162
23 年	710	54	194
24 年	646	40	139
25 年	608	30	104
26 年	579	43	178
27 年	602	48	193
28 年	604	46	205
29 年	569	34	137
30 年	530	46	237
元年	**540**	**31**	**113**

○　火災種別ごとに負傷者の発生数をみると、建物火災の部分焼以上の火災で負傷者が 299 人（46.5%）発生し、建物火災の５割近くを占める。

○　受傷程度別でみると、軽症が 417 人（60.7%）で最も多く、負傷者のおよそ６割を占める。

○　火災による負傷者を高齢者でみると、高齢者は 211 人（30.7%）で、高齢者の割合は前年と比べて 0.1 ポイント増加。

○　３人以上の負傷者が発生した火災をみると、31 件（前年比 15 件減少）で、113 人（同 124 人減少）発生。

⑵　出火原因別発生状況

ア　出火原因別受傷時の状態

出火原因別及び負傷者の男女別で受傷時の状態をみたものが表 5-2-4 です。

表 5-2-4　出火原因別受傷時の状態

受傷時の状態	合計	主な出火原因											男女別	
		ガステーブル等	たばこ	放火	電気ストーブ	大型ガスこんろ	溶接器	ロウソク	ライター	コード	ガスストーブ	その他・不明	男性	女性
合計	687	125	76	54	39	31	17	16	14	14	13	288	421	266
初期消火中	209	33	27	19	15	9	10	5	3	7	2	79	153	56
作業中	97	9	2	2	3	14	7	2	2	1	2	53	78	19
就寝中	76	5	18	6	9	1	－	4	－	2	2	29	42	34
家事従業中	68	56	－	－	－	1	－	1	1	－	－	9	20	48
避難中	67	6	7	6	5	1	－	1	1	3	1	36	33	34
休憩・休憩中	32	1	7	2	3	1	－	2	3	－	－	13	20	12
飲食中	11	2	1	－	－	1	－	1	－	－	－	6	3	8
採暖中	6	2	－	－	－	－	－	－	－	－	2	2	1	5
火災通報中	6	1	－	1	－	－	－	－	－	－	－	4	2	4
その他・不明	115	10	14	18	4	3	－	－	4	1	4	57	69	46

注　消防活動従事者（５人）及び自損行為による負傷者（13 人）を除いた人数です。

○　出火原因別の上位３位をみると、ガステーブル等が 125 人（18.2%）で最も多く、次いでたばこが 76 人（11.1%）、放火が 54 人（7.9%）となっている。

○　受傷時の状態別でみると、ガステーブル等では家事従事中に負傷したものが 56 人（44.8%）で最も多く、次いで初期消火中で 33 人（26.4%）で、この２つでガステーブル等で受傷した７割以上（71.2%）を占める。

○　男女別では、男性が 421 人（61.3%）、女性が 266 人（38.7%）と男性の受傷割合が高い。受傷時の状態を男女別でみると、男女共に初期消火中の受傷割合が最も高く、次いで男性は作業中及び就寝中の受傷割合が高く、女性は家事従事中、就寝中及び避難中の受傷割合が高い。

イ　受傷時の状態と受傷の理由

受傷時の状態をみたものが図 5-2-1、受傷の理由をみたものが図 5-2-2 です。

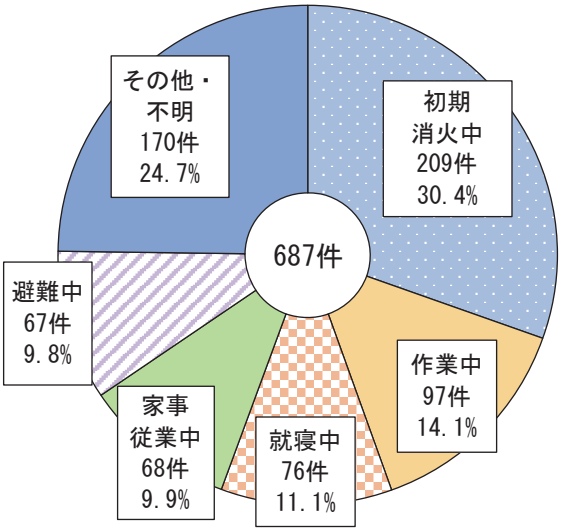

図 5-2-1　受傷時の状態

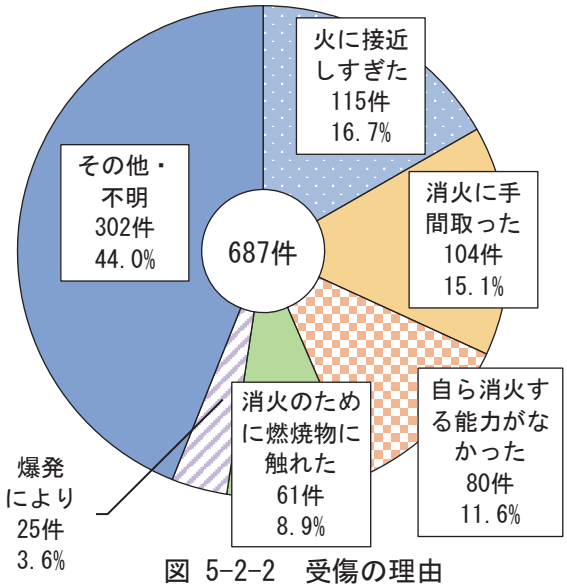

図 5-2-2　受傷の理由

注　「自ら消火する能力がなかった」とは、出火時に家事従事中（調理中など）で着衣着火などにより受傷したものです。

第5章

○　受傷時の状態をみると、初期消火中が 209 人で最も多く、次いで作業中が 97 人、就寝中が 76 人など。

○　受傷の理由をみると、火に接近しすぎたが 115 人で最も多く、次いで消火に手間取ったが 104 人、自ら消火する能力がなかったが 80 人など。

(3)　30 日死者

30 日死者とは、火災による負傷者のうちで、48 時間を超えて 30 日以内に死亡した人のことをいい、年齢区分状況をみたものが表 5-2-5 です。

表 5-2-5　30 日死者の年齢区分状況

受傷程度	合計	年齢区分				
		乳幼児	未成年	成人	高齢者	
					高齢者前期	高齢者後期
元年	7	－	－	4	－	3

○　令和元年中の 30 日死者は、自損行為による２人を除いた７人が亡くなり、前年よりも 11 人減少。30 日死者７人の内訳は、成人が４人（57.1%）、次いで後期高齢者が３人（42.9%）。